

木材検収システム AI 画像認識版

事例の概要

- 北信州森林組合(長野)では、山土場・中間土場での木材検収作業が従来、野帳による手入力方式であったが、組織内全般のデジタル化推進により、林業作業の最上流である山土場・中間土場でのデジタル検収作業へ完全移行。関連の運送会社への貸出も開始。
- 取り組みは周辺に伝播し現在、「スマート林業タスクフォースNAGANO」で採用され、長野県内にて組合・民間事業者等で幅広く活用中。
- 2020年7月にて、画像認識が大幅に改善されたことをうけ、B材(並材)以下の検収を、材価に応じて画像認識へ変更すべく取り組み中。
- 検収結果をスピーディーに送信することで、本部ではリアルタイムで原木状況の把握、配送計画や販売計画の検討できる体制になった。
- デジタル検収データは当初のメール送信から、サーバー送信方式へ変更され、集約されたクラウドサーバーでの情報共有が行われた。現在では、スマート林業タスクフォースNAGANOでサーバーを立て、組織を超えた情報共有へ移行中。
- 今後は、クラウドデータを林業サプライチェーンの源流として活用していく予定。

末口の揃ったフォワーダー上での写真撮影



皮目を一括で省く「一括縮小」ボタンも配備



A材検収等は、信頼のタップや音声認識入力



タップ入力

音声認識入力
(ワンマン検知)

モバイルプリンターで伝票作成

品名		数量	単位	価格	合計
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					
41					
42					
43					
44					
45					
46					
47					
48					
49					
50					
51					
52					
53					
54					
55					
56					
57					
58					
59					
60					
61					
62					
63					
64					
65					
66					
67					
68					
69					
70					
71					
72					
73					
74					
75					
76					
77					
78					
79					
80					
81					
82					
83					
84					
85					
86					
87					
88					
89					
90					
91					
92					
93					
94					
95					
96					
97					
98					
99					
100					

